

第8回藤沢市総合計画審議会議事録

と き 2010年（平成22年）3月6日（土）
午前10時
ところ 藤沢市保健所3階 大会議室

1 開 会

2 議事録確認

3 議 事

- (1) 藤沢市議会定例会議案「藤沢市新総合計画基本構想について」の審議結果報告について（報告）
- (2) 新総合計画基本計画の策定に向けた審議の進め方について
 - ア 新総合計画基本計画・実施計画策定の工程について
 - イ 「私たちの政府」基本計画・実施計画のフレームと考え方について
 - ウ 地域経営戦略100人委員会の基本計画策定に向けての取り組みについて
- (3) 新総合計画基本構想の副読本等の検討について
- (4) その他

4 その他

5 閉 会

事務局 会議に先立ち、委員数 24 名のうち現在員 18 名で、過半数となっており、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

(資料の確認、次第説明)

資料 1 の前回審議会議事録については、後ほどご確認をいただき、訂正等がありましたら 3 月 12 日までにお申し出いただきたいと思います。

それでは、曾根会長、よろしくお願ひいたします。

÷÷

曾根会長 ただいまから第 8 回総合計画審議会を開会いたします。
本日も円滑かつ活発なご議論をお願いいたします。
本審議会は公開としております。傍聴希望者はおりますか。(なし)
前回議事録の確認については、事務局の説明がありましたので、早速議事に入ります。

÷÷

曾根会長 議事(1) 藤沢市議会定例会議案「藤沢市新総合計画基本構想について」の審議結果について、事務局から報告をお願いします。

事務局 2 月 6 日の藤沢市新総合計画基本構想の答申を踏まえ、2 月 17 日の藤沢市議会本会議に議案「藤沢市新総合計画基本構想」を上程いたしました。その後、2 月 19 日の本会議において当議案は可決されましたことをご報告いたします。

曾根会長 ただいまの報告について、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

特にないようですので、議事(2) 新総合計画基本計画の策定に向けた審議の進め方について ア 新総合計画基本計画・実施計画策定の工程について イ 「私たちの政府」基本計画・実施計画のフレームと考え方について ウ 地域経営戦略 100 人委員会の基本計画策定に向けての取り組みについて、一括して進めます。事務局の説明をお願いします。

事務局 新総合計画基本計画・実施計画策定の工程について ((資料 2 参照)

23 年度から新総合計画をスタートするに当たって、本年 9 月の市議会定例会・全員協議会で基本計画を、12 月には実施計画を報告していきたいと考えています。そういう中でこれからどういうふうに進めていくかですが、地域経営戦略 100 人委員会については、昨年秋から地域経営会議と一緒に 1 万 3,400 枚の未来課題のための「気づき」を集めていただきました。庁内体制でも昨年藤沢市を取り巻く社会構造の変化、将来の予測等を踏まえて庁内検討会議において、どういう未来課題があるのか整理しているところです。また、わいわい・がやがや・わくわく会議でも藤沢の強み、弱み等々の未来課題を既に集めております。また、地域経営会議、

市民センター、公民館でも基本計画に向けて地域の課題、地域活動実態についての議論を十分していただいております。そういうことを踏まえて庁内でも3月15日に庁内プロジェクトを開催してその辺の説明をしていきたい。そして4月中旬を目途にそれぞれの会議体で集約して、課題のマトリックスへの埋め込みを100人委員会等と一緒にやっていき、重みづけとして課題のアンケート（1万人対象）を通じて民意がどこにあるのか、藤沢の未来課題とは何なのかということを確認していきたい。そして未来課題のメリハリづけをしながら全市域で考えていく未来課題と、13地区に分けて考えていく未来課題を整理しながら、5月下旬から6月にかけてまちづくりの指標の設定をしていきたい。そして地域経営会議ではそれを踏まえて、地域が目指すまちづくりの指標、目標、どういうふうな地域展開をしていったらいいかを整理していただきます。

一方、行政の中でも既に行っている行政課題のマトリックスの埋め込みをやって、市民アンケートを通じて出てきたものを全市域で扱うものについての行政施策の検討をそれぞれの会議体で行いながら、100人委員会、総合計画審議会でご議論をいただく。これは予定ですが、節目、節目で藤沢市議会の全協で進捗状況をご報告し、ご意見をいただいて、おおむね8月ごろまでに基本計画素案を出していく。その民意を問う形で8月28日（予定）に討論型世論調査を実施し、それを踏まえて総計審に諮り、答申をいただくというふうに考えております。並行して地域経営会議、庁内、100人委員会を通じて未来課題の地域まちづくり計画、地区別まちづくり計画の実態を踏まえながら、いよいよ地域経営会議が地域まちづくり計画を具体の活動に移していき、地域経営実施計画をおつくりいただく。行政内部も100人委員会の議論を踏まえながら、地域経営会議との調整を図りながら市域全体の実施計画と短期財政計画の策定をしていきたい。こんなスケジュールで考えております。

次に、ア 「私たちの政府」基本計画・実施計画のフレームと考え方について（以下資料3参照）

次に、イ 地域経営戦略100人委員会の基本計画策定に向けての取り組みについて（資料4参照）（パワーポイント）

大変ハードなスケジュールですが、きょうは基本計画等のフレームと考え方にわたる骨格をご議論いただいて、方向性をご確認いただきながら、基本構想同様柔軟な姿勢で三層構造による会議体の意見提案を踏まえ、基本計画の骨格についてをお願いいたします。

曾根会長

次に、ウ 地域経営戦略100人委員会の基本計画策定に向けての取り組みについて、コーディネーターの玉村委員から、補足説明がありましたら

お願いします。

玉村委員

前回の審議会の基本構想がまとまり、そのまま議会等で承認を得られまして、基本計画の段階に入ってきております。基本計画は実施計画ではないので、位置づけが微妙なんですけど、基本計画づくりに向けて100人委員会も既に動いております。基本計画は基本構想の理念を受けて、その先にある実施計画につなぐ役割を持っているもので、実施計画を支えるための情報、もしくは仕組みがしっかりと記述されている必要がある。どういう形で実施をするのかだけでなく、それを支えるための仕掛け、情報が必要なわけです。その1つの大きな柱になっているのが「藤沢の未来課題」という、いわば藤沢のさまざまな地域で活動している、もしくは生活している実感、行政がやってきている実感といろいろな実感があります。それから見た藤沢市の未来を考える大切な課題をまとめて、考えるべき情報の1つのまとまりとして「藤沢未来課題」というものをまとめていると理解しています。それに関してコーディネーターとしては、いかに藤沢で生活している、活動している実感を集めるかということに取り組んできております。既に昨年11月ごろから基本構想に先行して藤沢市の中で生活している気づき、活動している実感をいかに集めるかということに取り組んできました。基本構想を検討する段階でもさまざまなことを行って、藤沢のらしさ、未来の藤沢はということなのかとか、さまざまなことを検討してきております。それから実際にやってみて驚いたのは1万3,400枚のアンケートが集まりました。これは目標値があつてやったわけではなくて、各地域もしくはさまざまな領域で活動されている皆さんが、できるだけいろいろな人の声を聞いてみようかと挑戦して、結果的に集まってきたということです。正直、これをどうデータ化するかはかなり大変なんですけど、しっかりと進んでおります。いずれにせよ40万人の都市で1万3,400枚のアンケートが集まってくるというのはすごいことですけども、今、藤沢市全体からさまざまな実感が集まってきたという段階です。もちろんこれは地域だけでやったわけではなくて、行政の方も基本構想の段階からさまざまな統計を分析してみて、行政として考えるべきポイントは何かとか、行政がやってきた実感、強み、弱みについても市内のさまざまな会議体でやってきたわけです。そういう形で集めたものを徹底的に分析して1つのマトリックス、枠組に整理しています。

さらに4月から5月にかけて絞込みを行っていこうと思っています。すなわち藤沢市民の視点、行政実感、地域で活動している実感、そういうことを背景に可能性のあるものを徹底的に集めたわけです。すべて課題なわけですけども、資源も時間も限られているということで1万人のアンケ

ートをかけて、参考とする情報として1万人の声はどうだったのかというのをつくってみようとしております。絞り込む観点は他にあるかもしれませんが、必ずしも市民の声だけで進めていかどうかはまだ議論の余地があるかもしれないけれども、まずそういうことを想定して進めています。その上で絞り込まれたものに関して、深く考えて、深掘りという言い方で、地域ごとにどういう背景があるのだろうかとか、いろいろなことを検討していくことも予定しています。いずれにせよ、今、実現してきていることは、各地域もしくはさまざまな領域から声が徹底的に集まってきて、行政の皆さんにも試行錯誤していただいて藤沢市の未来を考えるような課題、方向性となりそうなものがたくさん出てきているという状況です。

曾根会長

それでは、基本計画の策定に向けた取り組みについて、議論をお願いします。

資料もたくさんあり、スケジュールも過密で課題もたくさんあって1万件からの「気づき」のアンケートが出てくると、整理するだけでも大変な上にそれをまた重みをつけて、優先順位をつけてとなると作業量が大変で、通常の総合計画に比べて、こんなに手間隙かけるのは全国でも珍しいのではないかと思います。手間隙かけて、しっかり足場を固めた上でつくっていかうという意図だと思いますけれども、きょうの議論の対象は、基本構想ができ、議会でご承認いただいた、それに基づいて基本計画をどうつくるかということですから、つくる手順、内容その他にご議論いただきたいと思います。

広海委員

ここで言う基本計画は、どういうふうアプローチしていくのかといった具体性のある計画をつくるころまでを含んでいるのかどうかの確認です。

事務局

基本計画の範囲ですが、基本構想の将来像を実現していくためのビジョンと目指す方向が9つによって示されています。これらを20年後を目指して具体化していくためにどういう仕組みをつくっていくか、あるいはどういう構成にしていくかが重要になってくる。そういう意味で9つの方向性を踏まえて、活動実態から導き出された未来課題の重みづけを踏まえて、それぞれの施策の方向での大きな戦略目標、その活動指標と何を指すのか。さらにそれを支える短期の施策というものも掲げて、それぞれの目指すべき指標というものを決めていきたいと考えております。したがって、従来では新林公園を実施計画として整理しますとか、漁港を整備推進しますとか、そういうことが具体的に入ってきたけれども、あくまでも基本構想を実現するための戦略目標と施策の方向、それが本当に未来課題を解決していく上で重要な目標であり、支える施策なのかということ、つまり

具体的に何々をつくるとか、何々を実践するとかというふうを考えています。

塚本委員

まだイメージがはっきりしてこないが、基本計画を半年ぐらいでつくっていくという中で、1万3,400枚から上ってきた気づきをマトリックスの表に当てて課題整理をして、一番大きなものは活動指標をアウトカムの視点からつくっていくということですが、指標づくりというのはどこがつかれるんですか。

もう一点は、スケジュールの中で、地域まちづくり計画は地域経営会議が担うようになっていて、そして地域経営実施計画（13地区まちづくり実施計画）となっているけれども、基本計画と地域まちづくり計画とその後の13地区別まちづくり実施計画の関係を説明していただきたいと思います。

事務局

1点目は、まさにアウトカムの指標をつくるということでありまして、基本的には100人委員会の中でアンケートの重みづけをして、出されてきたものを整理した中で、100人委員会で指標づくりをしていただく。それを地域経営会議が、それぞれの地区、例えば御所見地区の未来課題を踏まえて、ある程度の評価を踏まえて、自分たちで地域計画をつくる。したがって、地域経営会議が基本構想の位置づけに基づいて100人委員会の議論を踏まえ、地域経営会議と市民センターが中心になって、地域住民の意見を公聴会なのか、地区市民集会なのかを経て、御所見なら御所見の地域まちづくり計画をつくる。それで気づきから上がってきた未来課題を評価して、目指すべき活動指標というものを出していく。その施策の方向までを地域でつくっていただいて、それを100人委員会と議論しながら確認をし、総計審にも挙げていく。

一方、行政は市域全体の未来課題を踏まえて政策の目標づくりや施策の検討を行って、それを100人委員会に諮り、総計審に出して、基本計画では全市版のまちづくり計画と13地区ごとの地域まちづくり計画をつくる。全市のまちづくり計画と地区ごとの13枚のまちづくり計画という2つが出てくるとご理解いただきたい。そして地域まちづくり計画で示された目指すべき活動指標に基づく施策、地域の具体的な活動指標において、それを3年間でどういうふうに進めていくかというのを地域経営会議が主体となってつくる地域経営実施計画つまり13地区別の実施計画ができて来る。その中で3年間で目指すPDCAサイクルをつくって、指標を具体化していく活動を入れていく。そのために予算やいろいろなものが必要になれば、センターと議論をしながら提案していただくという形です。もちろん行政は、地域まちづくり計画に基づいて施策の体系ごとに実施計画をア

ウトカム指標に基づいて環境を守るために、こういう目標値を設定して、こういうふうにつくっていくという実施計画が出てくる。それに対して行政は別途短期の財政を裏打ちしていくというイメージです。

塚本委員

そうすると、市域全体のまちづくり計画と各地区がつくる地域まちづくり計画の二本立て、それにプラス財政計画が加わったものが基本計画の大きなフレームであると。市域全体のまちづくり計画をつくっていく工程の中では、マトリックスの表を使って1万3,400枚を分散させて課題にまとめたということだと思うが、地域別のまちづくり計画の策定過程の中では、例えば全体で上がってきたものを地区に振り分けていくのか、一方、地区独自の気づきや課題、将来課題が出てきているはずだが、その辺の整理はついているんですか。

事務局

一番重要なところですので、もう一度ご説明しますと、気づきの深堀りは3つで行います。100人委員会、地域経営会議の方から1万3,400の気づきをいただきました。行政は庁内に2つのプロジェクトチームをつくって、将来予測に基づくさまざまな未来課題をつくって、最後にマトリックスに入れようとしています。市民センターはさまざまな地域で行われているNPO活動や支援活動の実態を共通のマトリックスに入れる。それを持ち寄って1枚にあらわしていく。それを整理して重みづけしていくために地域経営会議や庁内のわいがや会議や100人委員会のご協力を得て、そこで一番重要なのは地域の目線で1万人アンケート、未来課題に対して市民はどう思うかが各地区から上がってくる。上がってきた課題は地区によって重みづけが違ふと思います。それで地域の課題がわかってきます。しかし、御所見地区でも藤沢地区でも片瀬地区でも辻堂地区でも同じような課題の重みづけも出てきます。それを集めて行政として市域全体で考えていく未来課題にしていく。13地区ごとの未来課題をベースにしながらやっていく。そして13地区の中で7つか8つ出てきた共通課題は市域全体で考える。それでも埋まらない課題については、行政は行政で予測性を踏まえながら審議会にお諮りをするというふうを考えております。

杵淵委員

地域経営会議の中に「まちづくりの指標の設定」と矢印でリンクしてあるのは13地区にまちづくりの指標をつくっていくということですか。それから13地区から提出されているのは間に合うのか、地域によって格差もあると思うし、問題点もあると思うし、かなりタイトなスケジュールなので、その辺の計画をお尋ねします。

事務局

既に気づきの1万3,400枚とか、生活実感から集まっております。一番多いところは人口5万8,000人の鵜沼地区、一番少ないところが9,000人の御所見地区ですけれども、ほぼ人口比率に合う形で地域の特性が出てい

る。したがって、13 地区ごとの地域まちづくり計画の中に地区のまちづくり指標がそれぞれ入ってきております。ここまで集めてきましたので、地域の方々は市民の皆さんとネットワークをお持ちですので、5月中旬から下旬に行う重みづけのアンケートを行って、あとは事務局とセンターとで頑張りながら分析・整理をしていけば、何とか間に合うと思っております。

杵淵委員 ということは、13 地区のまちづくりの指標がそれぞれ違うと認識すればよろしいんですか。全く統一をしないで片瀬はこういう指標、御所見はこういう指標でという考えでよろしいんですか。

事務局 地域ごとに行っている気づきの課題や地域の特性課題というのは微妙に違います。ただ、地域経営会議からは、例えば御所見と遠藤地区では共有する課題もあります。地域が異なっても御所見と遠藤というのは田園地域で調整区域が多いので、似たような共通課題については連携して進めていくものもあります。

曾根会長 今のご質問、お答えは本質的なところでありまして、分権をするというのは、それぞれに任せるという話なのか、分権しておいて後で調整しなければいけないという話なのか、このところの決断は重要ですが、これは実験的な要素がかなりありまして、今まであったものをどうするかではなくて、今後つくっていくという側面が大きいので、つくり方、仕組みのところは試行錯誤を繰り返しながらやっていくという側面が大きいと思います。これは重要なポイントで、分権をしておいてだめと、後で介入するのかという、その辺はまさに発想の転換ができるか、できないかで、これは市全体の話ではなくて、すべての地区もそれぞれの責任でつくれるのが問われるようになる。今までやったことがないから、直面している問題の切迫感というか、現実感が少ないのだらうと思いますが、この辺は1つ課題かと思えます。

もう1つは、既に市の方は過去の施策をやっている。総合計画というのは、今までやっていることにプラスされて新しいことをやりますではなくて、これをやるためには過去がレビューされて、減るところ、増えるところをやらなければいけない。ここを気がついていない部分がありますので、これは市行政の人たちのお尻をたたいて、新しい総合計画をつくるということは古い政策あるいは事業は整理されると、資源配分もされると、そこはしっかりと棚卸しを十分した上で、意味のないものを気づくとしてもしようがないし、予算がないからといって全部切っちゃうという、手法としては個別の事業を取り上げて、そっちの方からたたくという事業仕分けではないんですと、根幹から基本構想をつくり、基本計画をつくり、その過

程で過去の政策のレビューを十分やりますという仕組みなんです。これをご理解いただかないと、総合計画って単に作文ですよで終わってしまう。今回のつくり方が非常に手間隙のかかるつくり方をしているというのを納得していく上でそれぞれのところが過去を整理しましょうと、それから新しいものをつくる時には仕組みもやりましょうという二本立て、三本立ての話だろうと思います。

玉村委員

指標の話は審議会で議論をしながら、どの按配でつくったら藤沢市がよくなるのかということを中心に議論していけばいいのかなと思います。そういう前提でいくと、実施するさまざまな人たちが階段を目指して、地域がよくなったといえるような指標はそれぞれの地域が持つ必要もあるだろうし、行政でも行政内のものを持つ必要がある。そのようにたくさんの指標が出てくるんだというイメージをまず持つのがいいかと思います。とはいえ、部分的にはできていても、藤沢市全域でよくなるかどうかかわからない可能性もあるので、全市としてどうなのかというレベルで見る必要もあるだろう。それこそ今、「ふじさわ未来課題」というものをあえて全市でまとめてみようとしているのは、全市で見えている課題に対して地域ごとに違う中で、全市としてはこういう課題があって、それに対してどういったのかを見ておく必要があるだろう。両方をつくりながら、いかに相乗効果を出すような試行錯誤をしていくか。それは藤沢市という自治体の力が重要かだと思います。そういう指標の組み合わせをいろいろつくっていることを確認できればいいかと思います。

島津委員

資料3の7ページの図3に「大学連携、企業連携、商店街連携」とあって、10ページには「生活実感、行政活動、地域活動の実感」というところからいろいろな課題を掘り起こしてくるようになってるので、企業とか大学、商店街の方に実行のところにも当然入っていただくわけですから、みずからの課題としてとらえて、みずから実行していただく必要があると思うんですけども、その辺はどういうプロセスで取り組んでいくのですか。

事務局

これは新たな実施手法ですけれども、既に地域の気づきを委員の方々に集めていただいているときには、その地区の商店の方にいろいろ声をかけています。それから市内には4大学の先生や学生たちがいろいろな形で地域連携をやっている。そういう中で気づき等が集められてきたわけです。さらにそれを指標化してまちづくり計画に移していくときには、地域も地域経営会議や市民センターが中心になってそれを実現していくときに、大学、地元企業、商店とさまざまな実施の担い手と連携して進めていく。これは既に地域の中で始まっていますので、ぜひそういう連携をこれからもやっていきたいと思っています。

- 玉村委員 100人委員会の構成としては、地域経営会議から出てきた人、さまざまな領域から出てきた人、テーマから出てきていますので、そういう方々がそれぞれの係り合いの地域もありますし、さまざまなテーマとか領域の中で何が起きているか、どういうことを気づいているかをいかに集めるかということで取り組んできたわけですが、その中でかなり拾えているものもあるけれども、それだけでは足りないところも出てくるので、地域の中もしくはテーマから見て、なかなか近づけないところに関しては、行政の方がしっかり確認していくということでこれから進んでいくと聞いています。例えば大学連携にしても企業連携にしても商店街連携にしても行政が何らかの係わり合いがあると思いますので、そういうところで何が抜けているのかを意識して確認していただければと思います。
- 事務局 行政が確認したり、穴埋めしていかなければならないところは行政が汗をかいてやっていきたいと思います。
- 曾根会長 この前出ました芸術文化部門という領域はどのくらいあるんですか。
- 事務局 9領域です。
- 曾根会長 その9領域が片方は地域で、片方は領域と、それに企業や大学、商店街が入っているということですか。
- 事務局 その9領域の方々は、例えば産業領域の方は市の経済部、商工会議所の方々で事務レベルでの議論をしながら課題について穴埋めをしています。教育、子育てのところは若手の学生や市の職員や地域の人たちとやりながら穴埋めをしております。
- 川島副会長 大学、企業、商店街との新たな手法としてのリンクに関しては、先般藤沢市は市内4大学と提携したわけですが、それを発展して今までは断片的だった産業フェスタは産業フェスタでやっている。商業フェスティバルは商業フェスティバルでやっていたものを大学が入ったり、商店街が入ったり、企業が入ってより一層計画的に大学と地域、企業、商店がもっと活性化できるような方向に計画していくのではないかと思います。農業の方もぜひ新しい方向の計画をするような形を取っていただきたいと思います。
- 植原委員 先ほどの領域ごとについて少しお話いたしますと、100人委員会で9領域としたわけで、我々まちづくりコーディネーターがそこに入って、一緒に活動しています。ただ、領域の方に入ってしまうと、今回、地域力を前面に出しているの、なかなか意見を出す場が難しいところがあります。そういった領域ごとで活動している100人委員会から、どういった形で基本計画をつくる時にインプットしていくかという道筋も資料に入れ込んでいければと思っています。
- 曾根会長 非常に重要な点が議論されていると思います。つまり地域をそれぞれ分

権化し、それぞれの課題を抽出すれば、藤沢全領域の問題は出るはずだという過程は片方にある。とはいうものの大学、企業、商店街とかそれぞれの領域とか政策分野別の課題もあるはずだ。それをどう吸収するかを重要な役割として頭に入れておいた方がいいのではないかとご指摘だと思います。それを申し上げれば、審議会の委員はメンバーとしていろいろな領域をカバーしているわけですから、挙がってくる課題を横串を刺すような視点、観点、アイデアを注入していただきたいという関係ではないかと思えます。

渡辺委員

地域経営会議に相当負担がかかっているなど感じています。教育からインフラ整備までというのが見られる。ところが地域経営会議の人たちは2年に1度役員改正があつて、順番に回ってくるので、専門的なことはできないし、責任を持っていろいろなことを計画しても、次の人はとんでもないという形になっているので、地域経営会議にもう少し負担がかからないような方法をとらないと、これから計画に入っていくと相当会議があると思うんです。今、議会でも条例議案が出ていて、まちづくり基金についても、地域独自の事業をやるために基金を集めるとなると、会長が最終決定をするのですが、会長さん、幾らお金を出すのというような話が出てきて、そういう金集めの仕方になっていくし、そういうものの解決はこれから出てくるわけですから、どんな形で議会は判断するか別にして、まだ流動的などころがたくさんあるということです。地域経営会議に負担が相当かかっているということを申し上げたい。

田中委員

藤沢の未来課題を出して、それでまちづくり計画を設定するということの重要な要素が、マトリックスという手法を使ってやっているようだけれども、横軸の方は基本構想の方向性ということで明確になっているけれども、この気づきの分類という縦軸には6項目設定しているけれども、これは作業の手順で決めたと思うので、とやかに申し上げないけれども、問題は「ふじさわ未来課題」の中で、生活実感からと地域活動の実感からと行政活動の実感からというふうなことからまとめて、気づきの分類から落としているわけです。ところが実際は、藤沢全市的な問題と地域のまちづくり計画を精査するには生活実感からは、こういう気づきを深掘りして、こういうふうなものが出ていたら、行政の方から考えたらこうですということが混じらない資料をきちんと提示しないと、我々判断しようがないので、その辺はどうなんですか。

事務局

これは図式で書いたものですが、当然ご提示していきたいと思えます。

曾根会長

今の資料は例示だろうと思うんです。

玉村委員

今、1万3,400という数字があつて、これは100人委員会の中で集めた

ものですが、それ以外にもかなりの情報が出てくるという前提があります。それぞれの情報がどこから出てきたかということも全部記録に残していきながら、1万3,400はどれという話も無理があるので、いかに集約していくかということがポイントになってくるわけです。そうしていくと、どこから出てきた気づきなのかというのが確実にわかるようにしておくけれども、似たものもたくさん出てきます。これから地域のことを一緒にやってきた藤沢市であればあるほど、行政の人が言うことも市民が言うことも同じかもしれない。あえて整理すればするほど、屋上屋の話かもしれないので、どの情報なのかということで取り出したときに、行政実感から出てきたものはこれですということを問い合わせますし、市民から問い合わせるんですけども、同じ方向性の中につくっていくので、その後に実施計画もしくは地域まちづくり計画をやるときに、どういうところから出てきた情報なのかとか、それこそ生活実感と言われているものでも、例えば夜の道を安心して歩けることといったときに地域、地域で言うことが違うんです。鵜沼で言うところの夜道の安全さと、遠藤地区は全然違うでしょう。そのときにどういう地域でどういう発言があったのが確認できるようにしておくとか、市役所の方でどういう指摘があったのかを確認できるようにしておくことで、それでは表面的な文言で考えるのではなくて、どういうことが背景にあったかとか、深掘りした結果としてみんな、どんなことを実感していたのか、そういったことをできるだけ取り出せるようにして、実際に計画をつくるときはその情報を使う。計画をつくるとき、それは実施計画もひっくり返して、いろいろな情報を確認できるようにしていこうというのが今やっている作業です。

小松委員 重みづけをするためにアンケートを実施されるんですか。この1万という数を聞いて1万で十分なのか。気づきのアンケートで1万数千件が出ているときに、重みづけ1万でできるのですか。

玉村委員 ひょっとしたら多くなるかもしれませんが。あいまいなことを言ったのではなくて、先ほどの鵜沼地域という大きい地域もあれば、少ない地域もありますけれども、それぞれの地域ごとに優位な数字ではある。無作為抽出で誰に配るかということをやつつ、ちゃんと数が整うような形で回収率を想定しながら配布数を決めていくことになります。象徴的に1万件と呼んでいるけれども、こういうぐあいに数が集まってこない、この地域の声を聞いたとは言えないだろうというようなことを計算していくと、ひょっとしたらもっと多くなければいけないということは考えていきます。そのアンケートのボリューム感を見て、これなら結構回収できそうだと思うたら、統計的にある程度の数を配ることでカバーするようなことも行った

りしますので、そういう考えでやっていくということだろうと思います。

加藤委員

資料2の地域経営会議のところ、各地区への「地域まちづくり計画」の説明というのがありますが、これはどのような形で行うのか。地域の人に説明するというよりは、地域経営会議への説明ですか。地域経営実施計画というのは、市民にとって大切なことになると思うので、ここは丁寧に説明をして、市民参加をしていただく必要があると思います。

それから先ほど議論がありました市域全体のまちづくりと地域ごとのまちづくりはどのようにかわるのか、その辺も市民に十分に説明をする必要があると思います。

事務局

おっしゃるとおりだと思います。ここは負担がかからないようにということもありましたので、私ども経営企画課と市民自治部とセンター長や地域まちづくり会議の方々にいろいろな形で地域まちづくり計画をつくったり、実施計画をどういうふうにつくっていくか、工程とかつくり方とかの技術、情報を詳しくご説明していきたい。そのときに地域の皆さんのご意見を聞きながら案をつくっていかねばなりませんので、センター長ともいろいろ議論をして、地域ごとによっていろいろな意見を聞く場面もあろうかと思っておりますので、そういう場の設定をする。もちろんわかりにくい場面もあろうかと思っておりますが、必要に応じてセンター、地域まちづくり会議が主催して、私どもが出向いて市民にフレームの説明をする機会を設けて、できるだけきめ細かい説明をしていきたいと思っております。

曾根会長

ほかにありませんか。

きょうの議論ですべてお終いではありません。これから修正すべき点、ご意見を踏まえた上で、つけ加えるような点もあると思います。今後いろいろなご意見を出していただきたいと思っております。

×××

曾根会長

次に、議事の(3)新総合計画基本構想の副読本等の検討について、事務局の説明をお願いします。

事務局

当審議会において「副読本」という言葉がいいかどうかは別として、ご検討いただきたいと思っておりますので、資料5をご参照いただきたいと思ます。(資料5参照)

今回の新総合計画は、地域市民、コミュニティと行政が協働して基本構想を活用して「地域経営」や「市民主体の「藤沢づくり」を推進計画として位置づけられています。また、基本構想をできるだけわかりやすく解説してほしいというのが100人委員会、地域経営会議、市議会、審議会での意見、また、この総合計画は20年後の藤沢の姿を示すビジョンとして、次世代の担い手である子どもたちにも読める基本構想のキッズ版も必要

ではないか。その際にどういう読者層を意識したらいいのか。幼稚園生なのか、小学生なのか、中学生でいくのかということです。

そして「子どもたちにも読める基本構想」は、子どもを対象にするのか、また、子どもが読めて大人も読めるようにするのか、いずれにしても藤沢市が従来つくってきた概要版というのは、部厚いものを短くしただけで、行政と市民だけのものでしたが、次世代の担い手にも読めるものにしたいということで、かつ非常に内容の濃い基本構想になっていますので、事務局が勝手につくるわけにはいきませんので、ぜひ審議会でご討議をいただきたいと思います。

その頭出しとして、本日は、他自治体の漫画版や絵本版、物語版、キッズ版などを参考資料として集めてみましたので、ご覧いただき、ご意見をいただきたいと思います。

曾根会長

いろいろなタイプがあるということですので、どうつくるか、何をつくるかはこれからの議論ですので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

川島副会長

基本計画、実施計画に関してのマニュアル本としては、この2冊を見て今の子どもたちの教科書を見たような感じですが、教科書といっても我々と違った感覚の文字があって、噴出しがあったり、それが小学校5年生とか中学校2年生とかといろいろあるのではないかと思います、小学生向けと中学生向けとは相当違うように思うので、その辺の論議をしていかなければいけないと思います。それから子どもたちは藤沢市全体の航空写真などを意外に見ていないので、こういう森がある、川がある、こういう都市があるということに関心を持つのではないか。これには教育委員会のご意見もいただきながら、検討していただければと思います。

原委員

どこをターゲットにするのか、小学生、中学生なのか、いろいろ議論はあると思うんですが、例えばターゲットを小学生に決まったら、小学生としては絵本みたいな形がいいとか、漫画が読みやすいからいいとか、冊子スタイルではなくて映像とかインターネット上のy u o c u b e などの方が抵抗なく、気軽にみたいとかいろいろ意見があると思うので、ターゲットを絞って、どこに抵抗なく受け入れられるかを聞いてみる必要もあるのではないかと思います。

曾根会長

小学生なのか、中学生なのか、それによってかなり違ってくると思います。どうせつくるなら、小学生から読める方がいいとか、大人もわかりやすく読むなら中学2年生ぐらいのレベルがいいとか、ご意見があると思います。

川島副会長

今まで藤沢市の子どもたちは2020年までの計画については、家庭に1

冊はあるのに目に触れていないように思うので、教育委員会あるいは全教職員に理解していただきながら配布していかないとイケないかと思うので、新しい計画にはそういうルートも入れて、説明をしながら持っていくと、今度のマニュアル本は相当浸透していくのではないかと。冊数を少なくして小中学校両方にするのもいいかもしれないけれども、その辺は経済的な面もあるかもしれないけれども、ぜひ浸透させていただきたいと思います。

佐賀委員

視察で札幌市に行ったときに見たので、札幌市に面白いものがあるということで企画課に取り寄せてもらったのですが、これは都市計画を取り上げている本ですが、作成には都市計画関係の職員は全くかかわらないでつくっているんです。都市計画も知らない、かかわったことのない職員がメンバーに入ってつくったという意味では、一からスタートしていくような人が入っていくと、実際にできたときに、誰が見ても入り込みやすく、わかりやすいものになるという1つの参考として見ていただければと思います。

塚本委員

どの世代をターゲットにするのかに関しては、悩みどころだと思います。そういう意味では総計審の方で意見集約をしていくわけでしょうけれども、せつかくですから、100人委員会等の方々の意見集約もプロセスにいられていただきたい。

それから見栄えだけを考えれば、専門家に委託するという方法もあるし、全く基本構想、基本計画に携わらなかった方々がやるということもあるでしょうが、行政の中では予算の問題も出てくるでしょうが、全然想定されていない状況でもあるので、審議の過程によっては新たな予算措置等も出てくる可能性もあるので、その辺は柔軟に対応していただきたいと思います。

それから教育現場での活用は大事な観点だと思いますので、教育委員会等の意見集約も大事ですし、現場で活用していただけるような方向も見出しておいていただきたい。例えば総合学習の中で、「マイ総合計画」みたいなものを、大人が計画づくりにかかわったことの体験を小学生なり中学生にやっていただくと、また新たな発見、気づきにつながってくると思いますので、その点も意見として申し上げます。

広海委員

今のご意見に全く同感です。つくったはいいけれども、その先の活用が問題だと思う。学校現場にテキストか何かで取り上げてやるのもいいとももう。また、対象としては小学生といっても低学年と高学年では随分違うから、小学1年を対象というわけにはいかないでしょうから、こういうことに興味を持ったり、理解できるとなると小学校高学年以上ではないかと思うので、中学生を対象につくっておけば、小学校高学年でも読めるだろう

うと思います。

渡辺委員

佐賀委員と同じく札幌に視察で行ったときに、都市計画の説明の中でこういうものがあると言われて、ぜひ見せてほしいと見せてもらって、非常にためになったんですが、そのときに余りお金はかかっていないという話だったので、その辺を札幌市に問い合わせせてみて、検討してみてください。

曾根会長

今までのご意見では小学校高学年の5～6年生ぐらい、そして中学生も読める。その層が読みながら、かつ大人が読んでも読めるもの、「週間子どもニュース」という番組がありますが、視聴率が高いんですが、実は大人がかなり見て参考にしているんです。それから編集は難しいと思います。大学生向けの本をつくっている有斐閣、中学高校の教科書をつくっている東京書籍などは全く作り方が違うわけです。文部科学省の教科書をつくるというのは、我々が勝手に大学生向けにつくっているものとは違うので、その辺の工夫は編集が必要だと思います。誰がつくるかは結構重要な問題で、業者に頼まないまでも我々の方の心づもり、専門家はいけないとか、そういうところが重要な点だろうと思います。

それから漫画家とかイラストレーターの力の差というのがすごくあって、ここは難しい問題です。いい漫画家に頼めばいいものができるというものでもないし、高いお金をかけるといいイラストレーターは参加してくれるでしょうけれども、それが我々が望んだものになるのかという判断、それからビデオなのかDVDなのか、y o u c u b eなのか、この辺のところのことも含めて、検討課題としてお考えいただいて、次回、次々回あたりに方向性をまとめたいと思います。

ほかになれば、この件については引き続きお話をいただきたいと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

曾根会長

議事の（４）その他について。

事務局

今後のスケジュールとして本日の第8回を含め第14回までをお示しさせていただきました。また、第2回討論型世論調査を8月28日、湘南藤沢キャンパスで実施いたします。（以下資料6参照）

次回は4月10日（土）市役所防災センター6階で開催とさせていただきます。よろしく願いいたします。

曾根会長

ほかにありませんか。

特にないようですので、以上で、第8回総合計画審議会の案件はすべて終了いたしました。ありがとうございました。

午前11時55分 閉会